

組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名： アドミッションセンター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価 入学前教育について、制度設計を行い、希望者に提供するシステムを構築しているが、今年度の入学者については履修希望者が無く入学前教育支援を実施する必要がなかった。ただし、10月入学の3名について、学期進捗と同時に日本語の専門用語の欠落が確認され、就学支援のために3名のチューターを配置した。
①-1 目標	
○ 国際バカロレア入試合格者について、4月入学でギャップタームがある学生の入学前教育を希望する学生に入学前教育を支援する。	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価 平成26年度全国入学者選抜研究連絡協議会において次の2件の研究発表を行った。1.「高校生の文理選択について」、田中克己、飯塚誠也、上田一郎 2.「Rによる入試入れ替わり率解析システムの拡張」、飯塚誠也、栗原考次 また、第3回アドミッションセンターセミナーを開催し、研究成果を全学に還元した。
②-1 目標	
○ 全国大学入学者選抜研究連絡協議会(入研協)において研究発表を行う。 ○ アドミッションセンターセミナーにおいて研究成果を全学に還元する。	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
○ 全国大学入学者選抜研究連絡協議会(入研協)で1件アドミッションセンター教員が発表を行う。	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価 高大連携事業の高等学校の大学訪問37件。また、高等学校を訪問しての大学説明28件、など目標を大きく上回る合計65件の高大連携事業に積極的に参加した。
③-1 目標	
○ 高大連携事業に積極的に参加する。	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
○ 高大連携の(大学訪問と高校訪問説明会)を合わせて40件程度実施する。	
④センター業務	自己評価 国際バカロレア入試の広報および国際バカロレア教育に関する情報収集を目的として海外のIB校のみならず国内IB校を積極的に訪問した。IB校訪問および本学の入試制度説明は海外31校、日本国内13校で実施した。 本学主催の高校教員対象10回及び生徒対象11回の入試説明会等を実施、業者主催の入試説明会に30回参加し、西日本中心の高校訪問は125校実施した。 オープンキャンパスの全学の取り纏め及び全学説明会も行った。 メディアの広報は新聞・雑誌など6件実施した。 大学入試センター試験の教員対象説明会で、新課程と旧課程の混在する大学入試センター試験及び新たなリスニング機器の取り扱い指導において、ミスの無いよう説明に工夫を行って4回実施した。また、個別学力検査の説明会も各学部責任者等に対し実施した。
④-1 目標	
○ 国際バカロレア入試の広報を拡大する。 ○ 私費外国人入試の広報のため東アジアを中心に日本語教育を実施している高校を調査する。 ○ 教員対象および生徒対象の説明会を企画・実施する。 ○ 西日本中心に重点校の高校訪問を実施する。 ○ 業者主催の説明会に積極的に参加する。 ○ オープンキャンパスの取りまとめを実施する。 ○ メディアでの効果的広報を実施する。 ○ センター試験の教員対象説明会を実施する。 ○ 個別学力検査の説明会を実施する。	
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
○ IB校訪問は海外10校程度、国内10校程度を実施する。 ○ 本学主催の説明会を20件程度実施する。 ○ 高校訪問を100校程度実施する。 ○ 業者主催の説明会に20件程度参加する。	
【総括記述欄】	
今年度は教育再生加速プログラムの採択などにより、当初予定していた以外の多様な業務を実施することとなったが、高大連携や国際バカロレアに関する広報や調査を中心に、当初計画を大きく上回る活動を実行することが出来た。 大学教育再生加速プログラムでは、海外IB校への調査・情報収集を大幅に進めることが出来、入試教育改革に向けて次年度以降の研究準備が出来た。	